

◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が8例(男性6例(10歳代 2例, 20歳代 1例, 30歳代 2例, 40歳代 1例), 女性2例(30歳代, 40歳代))あります(第29週追加報告分 1例含む)。本年の累積報告数は189例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約7.3倍となっています。全国の累積報告数も13, 346例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約5.6倍となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	2	5	40	39	33	6	2	127
女性	3	4	28	9	6	7	5	62
合計	5	9	68	48	39	13	7	189

- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は, 3.15(126例)で, 前週 2.85(114例)より増加し, 第26週(6月24日～6月30日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.95(38例)で, 前週 0.63(25例)より増加し, 第19週(5月6日～5月12日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は, 4.05(162例)で, 第24週(6月10日～6月16日)以降, 7週連続で増加しており, 本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 6例(肺結核 3例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 224例(肺結核 120例, その他結核 55例, 潜在性結核感染者 49例)うち喀痰塗抹陽性 70例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎(C型) 1例(第22週追加分)【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: 風しん(検査診断例 3例, 臨床診断例 5例)8例(第29週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 189例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	4.05	162
	② ヘルパンギーナ	3.15	126
	③ 感染性胃腸炎	1.70	68
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	38
	⑤ 水痘	0.45	18
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

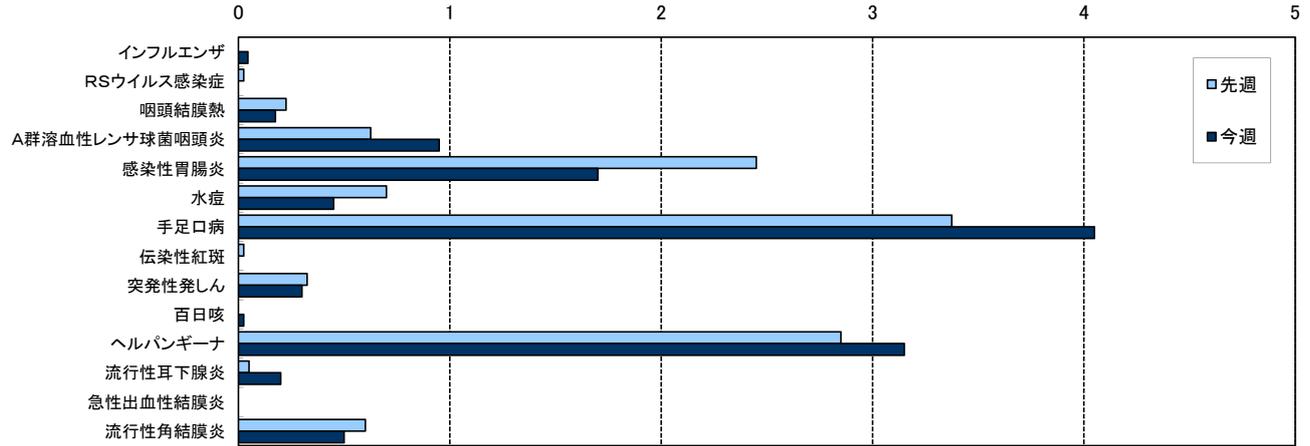
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

(注) 京都市のデータは, 平成25年8月1日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

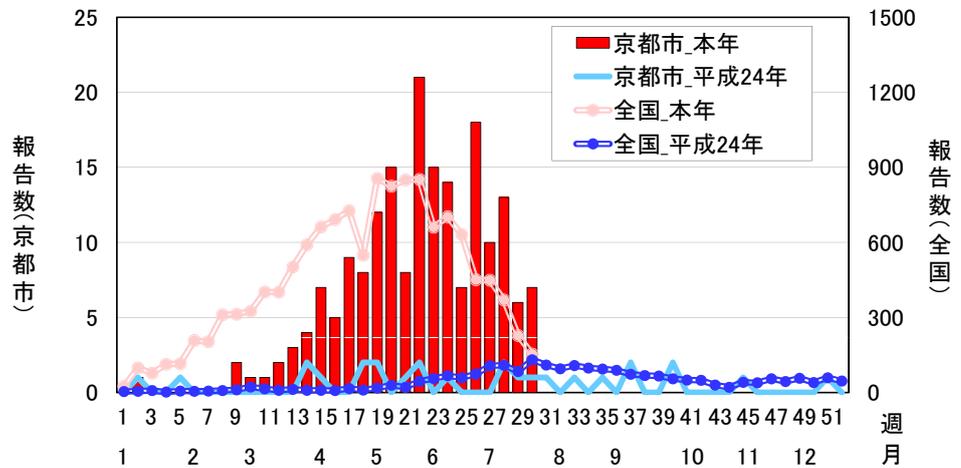
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第30週)と先週(第29週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

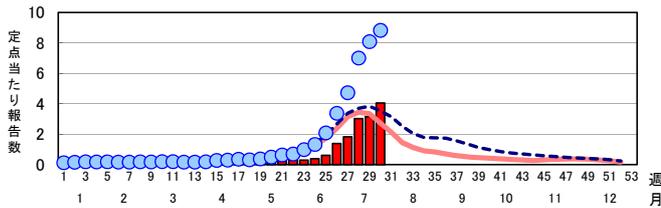
今週の報告数(累積報告数) 平成25年8月1日現在	
京都市	7例 (189例)
京都府(京都市を除く)	1例 (99例)
近畿6府県	65例 (4940例)
全国	156例 (13346例)



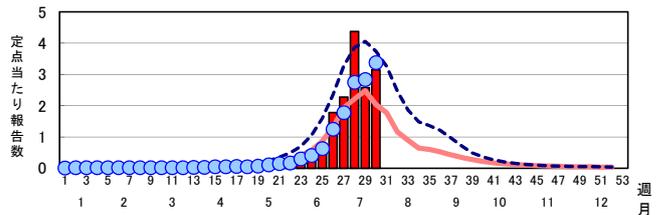
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

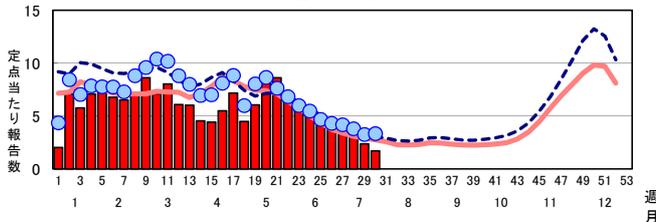
1 手足口病



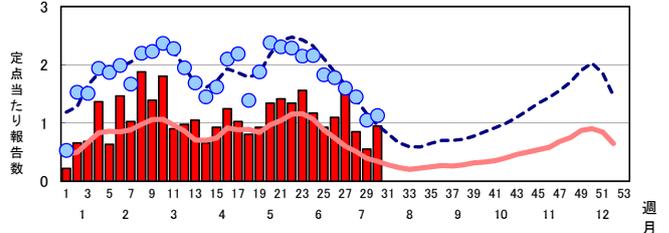
2 ヘルパンギーナ



3 感染性胃腸炎

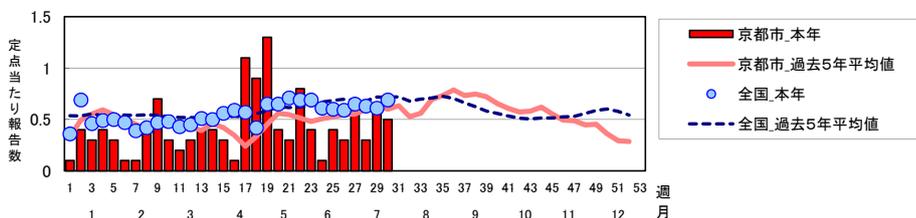


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第30週(7月22日～7月28日)トピックス: <手足口病>

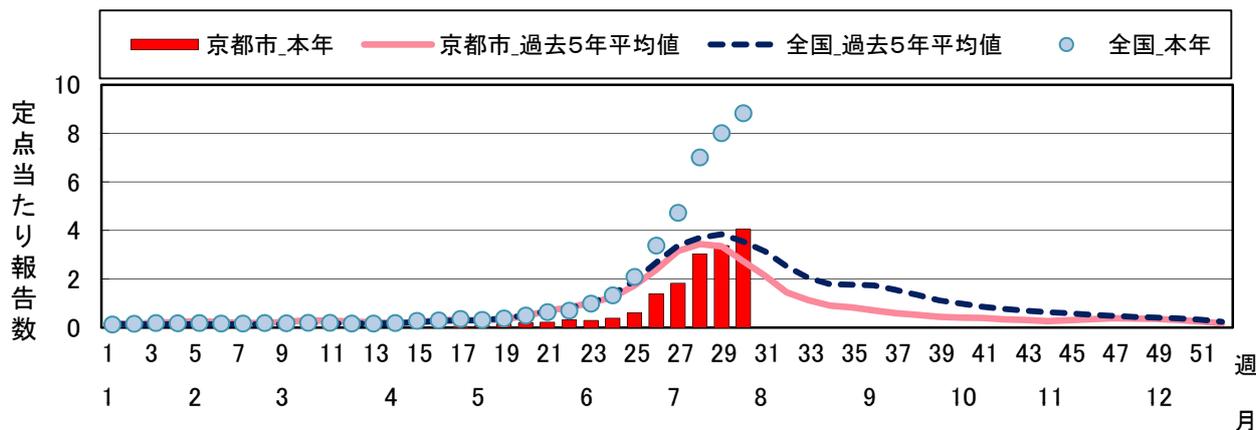
手足口病の定点当たり報告数は、4.05(162例)で、第24週(6月10日～6月16日)以降、7週連続で増加しており、本年度で最も多くなっています。全国の定点当たり報告数は8.83で、前週8.01より増加し、依然として、過去5年平均値を大きく上回っています。例年、7月から8月にかけてピークとなりますので、今後の動向にご注意ください。

行政区別にみると、11行政区中9行政区で前週より増加しており、右京区(11.0)と左京区(7.5)で警報開始基準値(*)『5.0』を超えています。

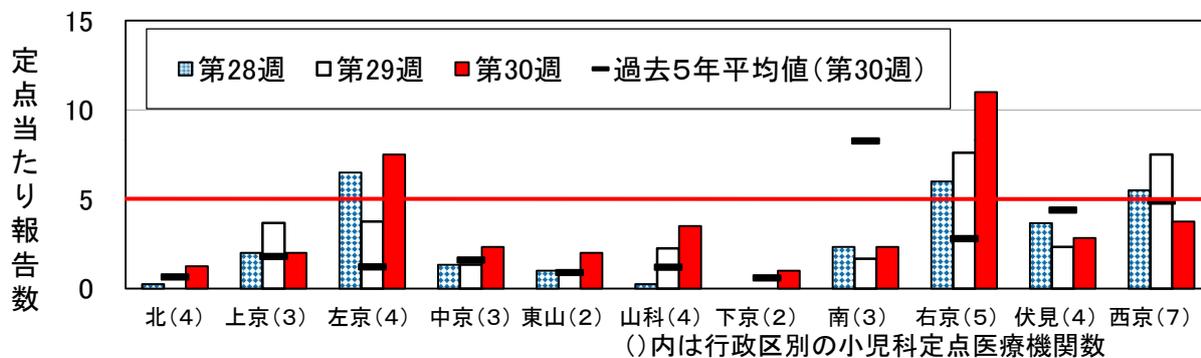
都道府県別では、47都道府県中32都道府県で前週より増加しており、34都道府県で警報開始基準値『5.0』を超えています。

(*)警報開始基準値とは、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを意味し、国立感染症研究所感染症情報センターがこれまでの感染症発生動向調査データから、基準値を定めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

